

# 子どもたちの学びあいが活性化する ための授業の環境に関する研究

静岡県藤枝市立広幡小学校

山崎 一宏

# 発表について

研究の背景と目的

研究方法について

実践経過から

今後の予定

# 研究の背景と目的

## 研究の背景(1)

学びあいを活性化することについて

# 学びあいについて

学びあいとは

学習者が行う互いの働きかけ(行為)によってそれぞれの学びが変容すること

相手も変わり 自分も変わる



個々の学びを押し進める作用

# 学びあいを活性化するには

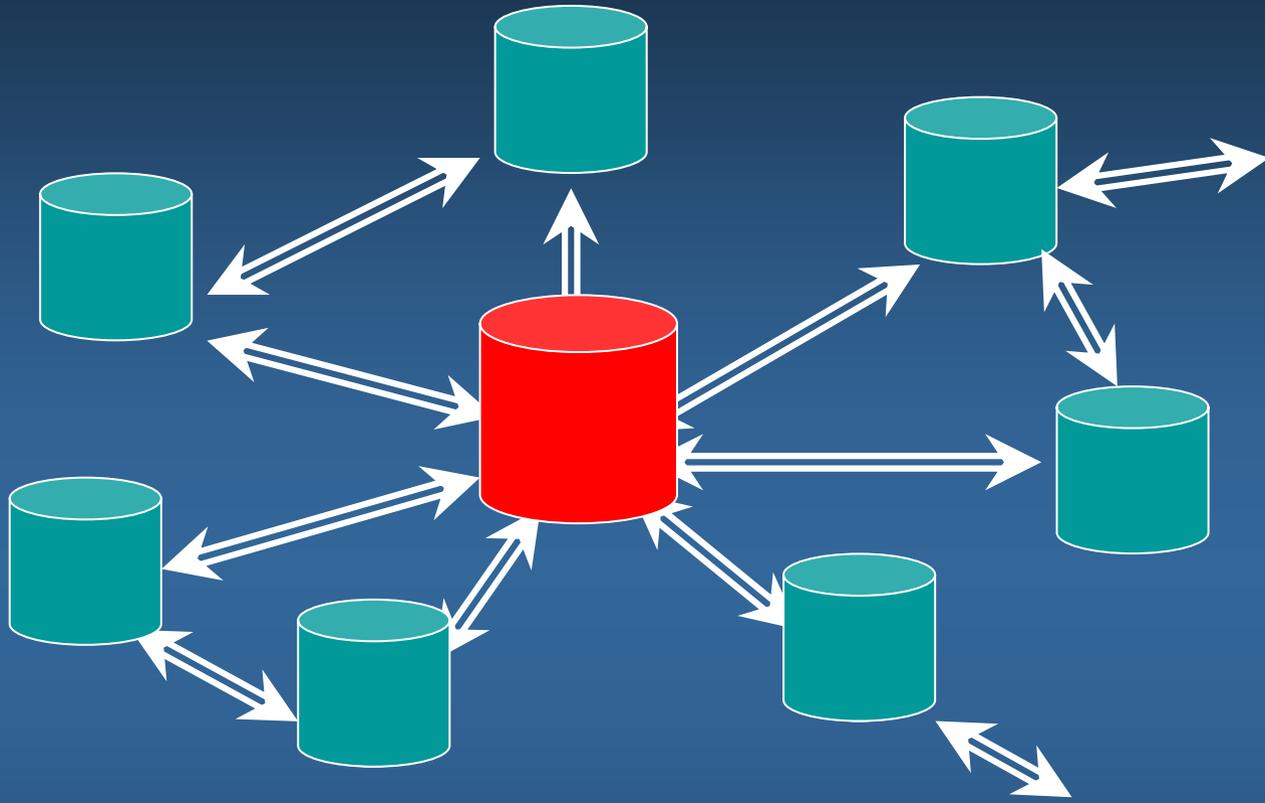
さまざまな**内容**で

さまざまな**相手**と 相互行為を持つ

さまざまな**場面**で (互いの働きかけ)

多様な相互行為によって

学習者が変容の可能性を多く得る



学習者はより多くの他者と関わりをより多く持つことでより変容をしていく

学びあいを活性化するための環境  
を整える



子どもが自ら学んでいく授業の実現

## 研究の背景(2)

授業の中の学びあう場面について

# 学びあう場面とは

## 子ども授業圏体の対象性が分けると

- 1 個人が集団(クラス)全体と関わる
- 2 個人がグループと関わりあう
- 3 グループ同士が関わりあう
- 4 個人同士が関わりあう

個人同士が関わりあうに焦点を当てた理由

辺土名(2003)

「関わりの中での学び」とは、学習者が学習環境をつくる中で生じる学びだといえるだろう

集団全体や教師によって決められたグループは子ども自身が相手を選ぶことが困難であるので制限がある学習環境ではないだろうか

# 研究の目的

# 研究の目的

授業において**子ども同士の学びあい**が**活性化するための環境**とはどのようなものであるかを明らかにする

**学びあいが活性化すると想定した環境**

学びあう相手を自由に選択できる場の設定

# 研究方法について

# 授業実践による研究(手続き)

- (1) TTでの授業(担任がT2)を行う
- (2) 教師間の意見交換
- (3) 意見を生かした授業の再構成
- (4) 記録の分析・考察

# 実践調査

調査校・学年・教科

静岡県F市立H小学校

継続実践 3年 国語・理科・算数

5年 算数・国語・理科

短期実践 4年算数 5年算数など

調査期間 平成15年10月から16年1月

# 実践調査における授業

- (1) できるだけ教師が活動の方法を指示しないようにする
- (2) 話し合いの場面では立ち歩いて自由に話す相手を選べるようにする
- (3) 授業の終わりに活動を振り返る場面を設定する

# 実践記録について

- (1) 子どもの動きをつかむために教室の前後に各1台のビデオカメラを設置
- (2) それぞれの子どもの会話を記録するために各個人がICレコーダを携帯  
(教師・子ども)

実践経過から

# 記録から見えてきたこと

- (1) 実践開始当初 3年生・国語(VTR)
- (2) 学びあう場面のある授業を求めて
- (3) 初めてのクラスでの実践 5年生・算数  
(VTR)
- (4) T・Tという環境

# (1) 実践開始当初

## 3年生・国語での「手紙を書こう」の学習

封筒の書き方をみんなで確認しよう

立ち歩かずにいる子どもたち

子どもたちは立ち歩いたり、会話をしたりすることが少ない

さらに動けなくなってしまう子どもたち

課題を提示する

学び合わせようとする  
教師の発言・行動

子どもの行動に口をはさむ教師の発言



## (1) 実践開始当初

学び合わせようとする教師の発言・行動

子どもたちは立ち歩いたり、会話をしたりすることが少ない

さらに子どもの行動に口をはさむ教師の発言

結果的に子どもの学びを邪魔する

場面設定だけでは学びあいは活性化されない

## (2) 学びあう場面のある授業を求めて

教師自身が自分の授業の方法を見直す

子どもたちが何を学びあうかをはっきりさせる

子どもは学びあう(学ぶ)方法を選んでいく

教師も子どもも自分で選んだ方法で活動すれば学びが活性化する

# (3)初めてのクラスでの実践

## 5年生・算数での分数の学習

出てきた答えが正しいことを説明しよう(6分の3は2分の1か?)

考えを持ちながらも発言しない子どもたち

「自信がない・友達のことを知り、確認できれば自信が持てる」と発言

立ち歩いて選んだ相手と意見を交換する

課題を提示する

なぜ発表しないのかを問いかける発言

確認してみようと促す



### (3) 初めてのクラスでの実践

個々の考えはあるのに全体への発言がない

子どもたちに発言しない理由を問いかける

友達との意見交換が必要であると答える

自由に行う場にしたら、立ち歩き相手を選んで話し合いを始める

教師と子どもが学習の場面設定をすることで学びあいがしやすくなる

## (4) T・Tという環境

T2はT1と子どもの活動を観察する

T1に対し授業後についての意見を述べる

T1がT2の助言をもとに授業を展開する

T2がT1の意図にそった行動をする

T・Tにおいて教師が関わりあうことから互いに変わるものがある

(1)(2)(3)から

場面設定  
だけでは  
学びあい  
は活性化  
されない

教師も自  
分で選ん  
だ方法で  
活動する

教師と子どもが  
学習の場面設定  
をすることで学  
びあいがしやす  
くなる



教師の変容が学びあいの活性化の環境  
になるのではないだろうか

# 教師の変容を支えるもの

(4)から

T・Tにおいて教師が関わりあうことから互いに変わるものがある

他に

記録をできるだけ多くの他者に観てもらい意見をもらう

自分自身が記録を観る

# 学びあいを活性化する環境 を作るには

- (1) 子どもたちが学ぶ相手や方法を自由に選べる場面設定
- (2) 教師が自身の授業の様子を知り他者の意見を  
得る機会の充実  
(容易に行いやすい場面がT・T)

今後の予定

# これまでの実践記録について

- (1) ビデオ記録やレコーダーの会話記録をもとに授業を細かく見直す(分析)
- (2) 子どもの表れの変化がわかる部分をビデオ記録としてまとめる

子どもの学びあいの姿を明らかにする

# 実践記録を生かして

- (1) まとめたビデオ記録を担当の教師や学校に還元する
- (2) その後の担任の授業を記録していく  
(できれば他のクラスの授業も記録していく)

ただし・・・

担任や職員を変えるためのものでない  
(変えるのではなく働きかけをすることで変わる)

つまり・・・

子どもたちの姿を共有することで教師同士が  
変容していくきっかけになる

**教師間の学びあい**の経過と分析